

【授業科目】急性看護学特論Ⅲ（クリティカルケア治療管理に関する科目）

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田和枝、豊田妙子、池田拓也、内田恭寛、中林規容、野々垣幹雄、蜂須賀丈博、河端賢司		1年次後期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	重症・集中治療を受ける患者の病態生理学的変化に注目しながら、安全な治療管理について実践的な能力を修得するように、看護師、医師、臨床工学士の協働性と専門分野の独自性について検討しながら講義を進める。後半は、クリティカルケアを必要としている患者の治療管理とケアリングの統合についての実践的な学修をする。 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・プリント配布により公開する。						
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①重症・集中治療が必要な患者には医学的介入が重要となる。そのため、科学的根拠に基づいた患者・家族中心のケアとケアが治療環境の中で総合的に管理するための知識を表現することができる。 ②高度看護実践者として責務を果たすためには、重症集中治療室における安全管理、ME機器に関する基本的な知識、治療に多職種が関与することに対する医療事故防止システム、身体侵襲が伴う創傷管理、呼吸管理、血液・輸液療法に関する知識や技術を修得することができる。						
時間外学習に必要な内容・時間	教科書は授業前までに読み、知識を整理しておく(各60分)。 教科書、配布資料以外にも文献検索を行い、プレゼンテーションに臨む(各120分)。 臨床での看護実践を授業内容に生かし、学びを深める(各60分)。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。						
授業計画	<p><重症・集中看護ケアの基盤となるEBN> 第1回 重症・集中看護ケアの基盤となるEBN:病態生理学を学ぶ重要性と必要性</p> <p><生命危機に対する治療管理> 第2回 生命危機に対する治療管理:心停止と心肺蘇生法 第3回 生命危機に対する治療管理:呼吸・循環管理 第4回 生命危機に対する治療管理:栄養代謝・水分・電解質バランス管理 第5回 生命危機に対する治療管理:緊急検査と緊急手術のマネージメント</p> <p><急性疼痛管理・鎮痛/鎮静剤の管理・創傷管理> 第6回 急性疼痛管理・急性疼痛のメカニズムと鎮痛/鎮静マネージメント 第7回 創傷管理:創傷の治癒過程と治癒を妨げる要因 第8回 熱傷管理:熱傷の治癒過程と治癒を妨げる要因・治療管理 (高度救命救急センター見学・研修)</p> <p><集中治療室で活用するME機器の管理> 第9回 集中治療室で活用するME機器の管理:ME機器の基礎、種類と動作原理、管理方法 第10回 ME機器使用中の管理:使用前の点検・使用中の管理・使用後の管理 第11回 危機管理・事故防止のためのマネージメント 第12回 人工呼吸器の管理と事故防止のためのマネージメント</p> <p><病態の特徴と治療管理:事例検討を踏まえながら治療管理に関わる多職種の協働性についても討議を行う> 第13回 疾患に特徴的な治療管理: 例: COPDの急性増悪に対応する治療管理とEBM/EBN 第14回 疾患に特徴的な治療管理: 例:重症心不全に対応する治療管理とEBM/EBN 第15回 疾患に特徴的な治療管理: 例:多臓器不全患者に対応する治療管理とEBM/EBN 例:頭蓋内亢進患者の治療管理とEBN</p>						吉田、豊田 内田 池田 野々垣 野々垣 蜂須賀 吉田、豊田 吉田、豊田 河端 河端 吉田、豊田 野々垣 池田 内田 中林
評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50% (ケーススタディ)、課題レポート 40%						
教科書	必要時提示	参考書等	道又元裕:クリティカルケア実践の根拠、照林社、2012 適宜提示				